時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄送に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐること尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

內閣策

此回の政局の紛擾は實に其極に達せりと云ふ可し松方總理はいよ〳〵辭職して斷然政府を去るに付き二三の老政客が黒幕を拂ひ多少の更迭ありて爰に新內閣を見る可しとの事なれども元來政府が斯る難局に陷りたる所以を尋ぬれば多年民間に不人望を醸したる其結果として議會の抵抗常に甚だしく又情實の因縁斷つ可らざるよりして閣員等が相互に他の全盛得意を許さず爲めに政府の方針一なるを得ざりしが故にして恰も議會に對する方策論の起るを機會に部內の不和も亦持上り或は硬と云ひ軟と云ひ或は黒と云ひ白と云ひ波瀾の動搖を來たすことなれば何は扨置き先づ第一に內閣を一致せしめて其方針を決定するに非ざれば假令ひ老政客の出るにもせよ決して良績を期す可らず左ればこそ從來に於ても總理の任は政治家の屬望する所にてありながら亦自から忌避する所となり現に松方伯が就職の時の如きも無理に勸誘付托して強ひられたる程の次第にして今や不幸辭退の止むを得ざることゝなりしが向後とても大根本に改造を加ふるに非ざれば內閣は又もや同一の運命に遇ふことなきを期す可らず今の後を承けんとする老政客の胸中には自から成算もあることならんなれ共我輩も聊かこゝに一言して其參考に供せんと欲するは外ならず抑も政府部內に於ける硬軟黒白云々の爭の如きは我輩の更に頓着する所に非ざれども國會の開閉、內閣の動搖、或は解散或は辭職等三百六十五日常に政治部面のみ多事にして殆んど間斷あることなく常に行政事務の停滯するのみならず人民も亦これに心目を奪はれて茫然日を空ふするが如き國家の不利これより大なるはある可らず人民は適する所を知らずして方向に迷ひ政府は起伏常なき失體を演じて威信を失ひ內外の事情見るに忍びざるよりして遂に一部分の論者中には遽に責任內閣の實を斷然するに若かずとまで主張する者もあるよしなれども民黨政府は實際に於て前途遼遠たり猶ほ幾年は現政府一流の掌握する所なる可ければ唯その間は際限もなく年々歳々議會と共に內閣も紛擾を以て始終するの外なしとありては政界の前途殆んど望なしと云ふも可なり然り而して其弊根の所在を問へば唯內閣の一致せず方針の一決せざるに在りと云ふ是れ我輩が特に今後の當局者に向て其成算を聞かんと欲する由縁なり從來の筆法を以て見れば其議會に對するの方針たるや往々智巧の小策を講じて民心全體の向背如何を問はず其內閣の一致を畫するや動もすれば姑息調停の慣手段を事として更に大に襟度を開くの沙汰を聞かず故に其言にも政府の維持云々とのみにて經略經綸等を云はず苟くも維持の爲めに彌縫するの外また他念なきの有樣なれば其心勞は左こそならんと雖も之を要するに政策の結果非なるものなれば善後の任に當る者は前者の非を鑑みて大に改むる所なかる可らず我輩の呉々も冀望する所なり蓋し是迄の當局者とても自から其非を知らざるに非ず或は之を知りて之を改るの計畫もありしとならんと雖も時利ならずして事行はれず遂に今日に及びたるものならん其遺憾は今更詮方なけれども次で出るは黒幕の老政客なれば俗に謂ふ岡目八目老政客が今まで傍觀したる間に於て或は弊根を發明したることもある可し又再出の老政客に非ずして殘る閣員とても此回の政變に際し省慮したること淺からざる可ければ內閣策に付ては曾て至難と認めたる事も案外容易に決斷せずとも云ひ難し我輩は次に少しく述る所ある可し

(以下次號)

官報

〇大藏省告示第三十八號

本年七月當省告示第三十二號整理公債第五回募集總額三百萬圓ノ處一百萬圓ヲ增加シ都合額面四百萬圓ヲ募集總額トス

明治二十五年八月四日　大藏大臣伯爵松方正義

雜報

〇外務省の來年度臨時部概算に就て　外務省所管の來年度豫算概算中には移民地探究費の新科目を設わりて其費額は凡そ四萬圓なりとの事は既に先頃の本紙に記したるが尚は同省來年度の豫算に就きて傳聞したる廉を記すれば此の移民地探究費なるものは之を臨時部に掲出しありといふ全體此の移民費は不成立となりし二十五年度の豫算中にも明に算入しありたりと雖ども同豫算編製の當時事情ありて此の移民費に充つべき二萬圓の金を經常部中の機密費四萬圓中に混入して都合六萬圓の機密費を要求せし處議會は之を半減して三萬圓となしたるより今回は斷然之を引き離し且つ金額をも增加して臨時部に移民地探究費の一新科目を設くる事となしたる由而して臨時部は此の移民費の外に營繕費の一款ありと云ふ尤も此の營繕費なる科目は不成立となりし二十五年度の豫算には之なかりしと雖ども二十四年度の豫算には之ありしものなるを以て之を不成立の案に比すれば新費目なれども二十四年度の豫算に比すれば決して新規にあらずして其異なる處は唯金額の上に差あるのみ即ち二十四年度の營繕費は四千餘圓なりしを今回は七千餘圓に增したる丈けなれども在外公館の數少なからざる上に朝鮮の公使館の如きは大風の爲めに餘程破損し居れば前記金額の營繕は敢て事珍しき支出にもあらずといふ又經常部に於ける外務本省と在外公館との二款の經費も多少は不成立案より增加し居るよし

〇安場保和氏の辭表と決心　安場非職愛知縣知事は去々一昨日を以て非職の辭表を呈出したるよし氏が此決心を爲したる始末を聞くに始め河野敏鎌氏の內務大臣に轉任するや間もなく府縣知事の小更迭を行ひ安場氏の如きは上京の途次愛知縣へ轉任の命を聞知したる位にて着京後內閣の方針を熟察するに多少前日と異なるの事實を認めたるを以て直樣辭表を提出せんと思ひしも地方官の身分として內閣の方針如何により辭職するは穩當を欠ぐの恐れありとて健全の身を以て病氣と稱し辭表を呈するは臣下の禮にあらず依て同氏は松方總理大臣に向ひ旨を諭して職を免ぜられたき旨を申出でしに其後數日を經過するも何の沙汰なく去る一日に至り自今年俸八分の一を增給すとの恩命に接し翌二日の午後に至り非職を命ぜらるゝに至りたり然るに氏は最初より免官を希望し居りしを以て一昨日に至り辭表を呈出せしに之と行違にて貴族院議員に任ぜられたり此際氏は前任地福岡に歸任し九州同志者と共に政海に運動する決心なりと云ふ

〇グラッドストーン氏の健康　昨日のルートル電報はグラッドストーン氏の風邪に冒されて寢床に着きたる旨を報ぜり如何に有名なる同氏のみとて僅かに風邪位のことを電報にて知らするは人の噂を飛脚もて報ずるが如しと思ふ人もあらんかなれどもグラッドストーン氏は稀代の老翁にして若年の時より人間に稀なる健康を保ちたり氏は氏の夫人と同じく結婚の日より唯の一日も病みたることは殆ど是れなしと云ふ然れども萬一、病氣に成りたる時は氏の如き柔順なる患者は我が病家になしと多年の間、氏の雇醫者たりしサー アンヅルー クラーク氏は云へり愈々病氣と定まればグラッドストーン氏は寢床に着きて全快するまでは之を離れず氏は病氣療養の爲めに臥床の德を大に信ずる人にして其說に寢床に居れば心氣を平かにし平生の俗事の勞を擲つの功あり又寢床に居るは數千の無用の客を謝絶する完全無欠の遁辭なりと云へりと

〇神儒佛三道學校　宗教家の河合濟九氏等は今度同意者の醵金を以て神儒佛三道の蘊奥を研究すべき一の學校を創設せんとて目下其計畫中の由なるが鳥尾子を始め贊成者より醵出したる資金も最早相應に集まりたれば來年早々本郷若くは小石川邊に該校舍を新築する筈にて夫迄は駒込の吉祥寺境內に假校を設けて授業する筈なりと云ふ

〇金城新報の發行停止　名古屋市にて發行する金城新報第千九百十一號は治安に妨害ありとて去る二日其筋より發行を停止されたり

〇岡山縣人の義捐金募集　此程岡山縣下の水害は意外に甚しかりしかば在京同縣人は傍觀するに忍びずとて義捐金取扱所を麴町區飯田町一丁目七番地山羽氏方に設け目下頻りに募金中なるが發起者の配布したる主意書は左の如し

岡山縣人諸氏に訴ふ

慘は天災より慘なるはなく情は生別より情なるはなし之を覩れば眼光消え心神絕え之を聽けば耳膜破れ氣魂飛ぶ此慘情を極めしものは實に我岡山縣下に於ける水害是なり電信の不通と郵便の延着より詳細の報道を得るの便なしと雖も其岡山市及外十六郡に於ける被害の概況は昨今の新聞紙上に傳へて喋々たり顧ふに此の如き被害の慘しさは我縣在て以來曾て有らざる所にして慈母其子を養ふを得ず孝子其親に奉仕する能はず耕さんと欲するに犂鋤なく[illegible]に歸せるを奈何せん一市十六郡數萬の同胞は今や將に道途に彷徨して徒らに飢餓を待つの狀あり豈に愍むに堪ゆべけんや故て吾輩十二名昨相會議し茲に我縣人及我縣に縁故ある仁人君子に訴ふるに同胞相濟の道を以せんとす義捐の多少は固より問ふ所にあらず希くは同感の士、左の款項を見て續々捐金あらんことを

一義捐金受納は來る二十日を以て〆切ます

一義捐金は左の事務所或は發企人に宛て送附を乞ふ

一義捐人名は追て岡山新聞紙中其一を撰で廣告すべし

一義捐金は受納期限の翌日を以て岡山縣廳に送附し相當の區分を依賴す

明治二十五年八……

發企人

〇岡山三石間開通　……る五日頃の見込な……る一日一番列車よ……は最早網干、三石……破損所は復舊工事……を架し旅客を一日……に前路の列車に乘……は加古川驛を限……取扱をなす趣な……變更せり但神戸發……

網干（上……

姫路（上……

（以下……

神戸（着……

又網干と那波、……べきも有年、三……に多く時日を要……同隧道東口の梨……るべし然れば梨……なる時は當分不……線路となるべし

〇德島縣山潮及……縣下勝浦郡原村大字……たる詳報左の如……被害地は旭村……吐出を受け名……して戶數十七……架し通路を爲……續き同山の谷……風雨一層猛烈……本村に身を避……達すること能……するものは該……照し周章狼狽……一大鳴動ある……岩石又は大樹……手三戶を押流……の支流を遮斷……したる旭尋常……川筋に於て同……は

流死　粟岡濟三郎（……（十九年）召仕……年）粟岡龍太郎……年）上面伴六（……（六十年）萬又……男利（七年）……年）同人次女……

負傷　粟岡傳十郎（……十三年）

〇青山共葬地の……に增加して漸く……く夥しき墓碑の……し是等の墓碑を……とて今度夫々取……